

最新事情

マナーも、コミュニケーションも仕事の仕方、
教員自身が社会人としての手本になる

大妻女子大学短期大学部

(東京都千代田区)

「社会に貢献できる力を身に付け、その力を広く世の中で発揮していく」という建学の精神の下、時代の変化に合わせ、職業人として活躍できる人材を育成してきた大妻女子大学短期大学部。同短大では、各専攻での学びを実社会と接続して生かせるよう、令和元年度入学生からキャリア教育科目を必修とした。その目的と同短大が目指す人材育成について伺った。

教員自身の体験を 学生に見せて学んでもらう

大妻女子大学短期大学部には、家政科(家政専攻、生活総合ビジネス専攻、食物栄養専攻)、国文科、英文科があり、1学年約400名が学んでいる。同短大では、これまでの数年、選択履修であったキャリア教育科目を、全学生必修とした。その狙いについて同短期大学部長の下坂智恵教授はこう話す。

「本学部ではこれまで、専門科目の指導や専門資格の取得を通じて、社会で生かすべき知識・スキルを育成してきました。それぞれを指導する先生方が、自身の生き方を語ることで学生にとっても学びとなってきたのです。しかし不安

定で変化の大きい現在の社会状況では、さまざまな生き方の中から自分自身の生き方を考え選んでいかなければなりません。そのために必要なのが心の部分、つまり「働くとはどういうことか」を理解し実感しておくことです。また社会で働き輝いていくためにはコミュニケーションなど人と人の関係の作り方を学ぶおくことも大切。これらに応えるものとしてキャリア教育科目に大いに期待しているのです」。

キャリア教育科目を指導するのは、同短大キャリアセンター特任講師の澤田裕美先生だ。澤田先生は航空会社などでの勤務経験、秘書検定などの指導経験を買われ、5年前からキャリア教育科目や秘書教育科目を担当してきた。

「キャリアデザインI」は着任当初から担当してきた科目で、今年から1年次前期の必修科目となった。この中では、40社以上の事例について、学生がグループでのディスカッションを行う。ケーススタディーによりさまざまな職種・職種・働き方(正規・非正規・一般職・総合職等)があることを学生に理解させるのが第一の目的だ。この事例は、学生が実社会との接点を持ち、学外に目を向ける機会となるよう、澤田先生自らが取材してきたものだという。

「単に事例として紹介するのではなく、私自身が相手の方に会えるまでにどのようなアプローチをしたか、連絡やお礼の仕方など全ての過程でのエピソードをできるだけ学生に伝えることを心掛けています。それと同時に、人の



学校法人大妻学院は
平成30年に創立110周年を迎えた

短期大学部長の下坂智恵教授。「企業からは“就職の大家”として評価していただいています。学生にはキャリア教育科目と各専攻の学びで、より視野を広げてもらいたいと思っています」



キャリア教育センター特任講師の澤田裕美先生。「私自身、秘書検定からたくさんのごことを学びました。学生の手本となるよう、立ち居振る舞いや身だしなみの全てに気を配り、“秘書検定”を体現できるよう努めています」

企業とのPBLで、 学んだ知識を生かす

名前を覚えること、身だしなみ、きちんとした立ち居振る舞い、秘書検定で学べる社会人のマナーが役に立つことも強調しています」と澤田先生。先生自身がこれまで秘書検定で学び身に付けてきた社会人としての基礎を、自らが授業内で体現するのだという。服装も立ち居振る舞いも、報告やコピーの取り方などのちよつとした仕事の仕方も、全て周囲への配慮や次の仕事への布石になる。その姿を学生に見せ、学び取ってもらうのである。

昨年度までは、「キャリアデザインI」で学んだ後さらに学外との連携活動をしたい、学びたいという学生のためにPBL (Project Based Learning) を行うサークルを作り、老舗のカバンメーカーや洋菓子店と連携した商品開発など

を行ってきた。

昨年度は、株式会社コロパンと連携したPBLについて、幾つか、学外のコンテストに参加して発表した。四年制大学生と競い合い、優秀な成績を収めることができ、これが学生にとって心に残る経験になったようだ。

「実際に店舗を回って情報を収集し、ディスカッションで議論を深め、企業の方にも提案して商品企画を行いました。その取り組みについて、他の方にも分かりやすくプレゼンテーションする。この力がPBLを通して身に付いたことを実感できたようです。四年制大学を押さえて受賞できたことは、学生たちの自信にもなりました」(澤田先生)。

これを踏襲する形で、今年度は選択科目の「キャリアデザインII」「キャリア・デイベロップメント・プログラム」(両方とも1年次もしくは2年次後期に履修)を新設した。

「『キャリアデザインII』では、キャリアの理論を学び、産学連携を行います。今年度は京都の老舗懐石料理店との産学連携PBLを行っています。活動を通じて、『キャリアデザインI』で学んだ業界分析やマーケティングの理論、プレゼンテーションの技術を身に付けることが目標。料理長やゲストスピーカーからお話を伺い、将来の働き方のヒントを得る機会も設けています。そして『キャリア・デイベロップメント・プログラム』ではさらに発展的に、企業からいただいた課題に対して自主的に学び、



(上) 昨年度のサークル活動で、株式会社コロパンと連携して商品化したクッキー詰め合わせ「たまた箱」のデザイン。工場視察や店舗の覆面調査なども実施して商品開発。ネーミングや絵柄なども学生が提案した
(左) 平成29年度は「社会人基礎力育成グランプリ(関東地区)」に出場し、コロパンとの産学連携を発表。見事、準優秀賞を受賞

チームで課題解決を行うのが目標です。今年度はフィールドワークと共にRESSAS(地域経済分析システム)を活用して、外国人向けの観光サービス(千代田区内)を考案する予定です」(澤田先生)。

いずれも選択科目だが、意欲的な学生が多く「キャリアデザインII」は約80名、「キャリア・デイベロップメント・プログラム」は15名が履修している。一連の科目の多様な活動が少しずつ重なり合い、学んだことを実践する機会となっている。計画・実行し、内省する。この流

最新事情 46……大妻女子大学短期大学部



短期大学部家政科2年生の鎌田穂乃さんは秘書検定2級に合格。「これから準1級を受験する予定です。社会人になっても勉強を続け、1級の合格を目指しています」

社会人・企業人としての基礎を作る秘書検定

れが、確かな社会人基礎力につながると澤田先生は説明する。

同短大家政科の家政専攻・生活総合ビジネス専攻では、「秘書概論」「秘書実務」など秘書教育科目を幾つか開講。澤田先生も指導を担当しているが、重視しているのは知識の習得だけでなく、社会人としての基礎力を確かに身に付けることだ。

「近年は、新卒で秘書になる学生はほとんどいませんが、秘書検定で学べる内容は、将来、結婚してから派遣やパートなどで働くときに生かせる場合もあれば、ホテルなどのホスピタリティ産業に勤めキャリアアップする際に生かせる場合もあります。なにより、マナーや倫理観、公德心といった社会人としての基礎は、20代後半から30代にかけての個々人の働き方や彼女たちを抱える組織の在り方にまでつながることを教えています」（澤田先生）。

が、授業の冒頭で秘書検定が社会人としての基礎を作るためにとても勉強になることを教えてくださったので、私も受験を決

めて2級から取り組み始めました」と話す。特に役に立ったのは、敬語の使い方や席次。「知らないことで無意識のうちに失礼な態度をとってしまうのを避けられました」。

学んだ内容をすぐに実践できるようにと、鎌田さんが澤田先生にもらったアドバイスは、アルバイトを変えることだ。最初は飲食店でアルバイトをしていたそうだが、そこでは従業員同士の仲がよく、碎けた調子でのやりとりが多かった。「社会人としてきちんとした対応を身に付けたいと、都心の映画館でのアルバイトに変えました。大人のお客さまが多く、さまざま質問を投げ掛けられることも多いので、対応の練習になっています」。

鎌田さんは澤田先生のキャリア教育科目を全て受講し、サークル活動にも参加。今年も継続している。最初は、「就職する」「就職活動する」と頭で分かっているが、「働く」という具体的なイメージが湧かなかつたと振り返る鎌田さんだが、「実際に働いている女性の事例を学んだり話を聞いたりすることで、働くというビジョンが少しずつ現実的になってきました」と話してくれた。充実した学びの成果か、総合職としての採用も決まり、将来に向けて意欲を膨らませている。

鎌田さんの言葉からは、学生が、手本になる「輝く女性」を求めていることが感じられた。同短大の先生

方、多様な企業で働く卒業生、事務職員として働く卒業生など、さまざまな女性が彼女たちの手本となっている。

同短大では来年度から、大妻学院の創立者である大妻コタカの教えに学ぶ「コタカ学」を開講する予定だ。

「家政科家政専攻・生活総合ビジネス専攻以外では、マナーやコミュニケーションスキル、人間同士の関わり方に関する科目が少ないため、それを補うことも目的の一つとしています。コタカ先生の教えから生まれた校訓『恥を知れ』には『恥を知る人となれ』という意味があります。創立者の建学の精神から改めて学べることは多いはずですよ」（下坂学部長）。

女性として、社会で活躍するための力を付ける取り組みは、続いていく。

「キャリアデザインI」で活動する生活総合ビジネス専攻の学生たち。講義風景(上)と、学生のプレゼンテーション(下)

